

令和3年度

事業報告書

社会福祉法人女川町社会福祉協議会

# 目 次

監査報告書	1 頁
令和3年度事業報告	
事業報告の概要	2 頁
事務局	3 頁
ボランティアセンター	18 頁
地域包括支援センター	23 頁
地域活動支援センターうみねこ園	37 頁
日中一時支援事業	46 頁
生活支援体制整備事業	50 頁

# 監査報告書

令和4年5月27日

社会福祉法人女川町社会福祉協議会  
会長 高橋 孝信 殿

監事 袁 藤 貢

監事 渡 邊 智 仁

私たち監事は、令和3年4月1日から令和4年3月31日までの令和3年度の理事の職務の執行について監査を行いました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

## 1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び職員等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び職員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査しました。以上の方法により、当該会計年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該会計年度に係る計算関係書類（計算書類及びその附属明細書）及び財産目録について検討いたしました。

## 2 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及び附属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

### (2) 計算関係書類及び財産目録の監査結果

計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純資産の増減の状況を全ての重要な点において適正に示しているものと認めます。

## 事業報告書の概要

昨年度に続き、新型コロナウイルスによる感染が終息を見せない状況ではありましたが、新たな生活様式のもと感染症対策を徹底し、創意工夫をしながら事業を継続してきました。

本会が策定した「第5次女川町地域福祉活動計画」の基本理念である「地域のつながりで 一人ひとりの幸せが実現するまち おながわ」目指し、基本目標である①一人ひとりが自分らしく暮らせる地域、②お互いが支え合う地域、③誰もが安心して暮らせる地域、④組織の経営基盤強化の4つを軸に住民の権利擁護の実現、住民主体による支え合い活動の活性化、相談しやすい環境整備などに取り組んだほか、いつまでも地域で住み続けるために一人の問題を我が事として捉え、話し合える土壌作りとともに、複合的な課題を丸ごと受け止める場の構築を目指すべく、地域や住民が主体となり、共に参加し・支え合い、身近な問題の解決に向け、産学官民が共に歩みながら、地域や住民の「自助・互助・共助」といった地域福祉力を高めることを目指し、各署において事業を展開してきました。

各署における事業明細については、次のとおりです。

# 事 務 局

## 1 法人運営事業

### (1) 本会の運営に関すること

#### ①正副会長会議の開催

名 称	出席者数	会 期	協議事項
正副会長会議	4名	R3.9.28	下記事項について、協議を行った。 (1) 理事会及び評議員会の日程等について (2) 評議員選任・解任委員会の日程等について て (3) その他
	4名	R4.2.8	下記事項について、協議を行った。 (1) 理事会及び評議員会の日程等について (2) 臨時職員の退職に伴う募集等について (3) その他

#### ②理事会・監事会・評議員会の開催

理事会			
第1回	会 期	令和3年6月8日	
	理事定数	9名	
	出席理事	7名・監事2名出席	
	議 案	議案第1号 令和2年度社会福祉法人女川町社会福祉協議会事業報告の承認について 議案第2号 令和2年度社会福祉法人女川町社会福祉協議会会計収支決算の承認について 議案第3号 社会福祉法人女川町社会福祉協議会職員の育児・介護休業等に関する規則の一部を改正する規則について 議案第4号 評議員の選任候補者について 議案第5号 評議員選任・解任委員会の招集について 議案第6号 役員の選任候補者について 議案第7号 評議員会の招集について	
	報告事項	(1) 評議員の退任について	
	第2回	会 期	令和3年6月25日
		理事定数	9名
出席理事		7名・監事2名出席	
議 案		議案第8号 会長・副会長の選任について 議案第9号 評議員選任・解任委員会委員の選任について	

第3回	会 期	令和3年10月29日
	理事定数	9名
	出席理事	8名・監事1名出席
	議 案	議案第10号 社会福祉法人女川町社会福祉協議会職員の給与に関する 規程の一部を改正する規程について 議案第11号 役員賠償責任保険の契約について 議案第12号 令和3年度社会福祉法人女川町社会福祉協議会会計補正 予算(第1号)について 議案第13号 評議員の選任候補者について 議案第14号 評議員選任・解任委員会の招集について 議案第15号 評議員の招集について
	報告事項	(1) 職員の退職等について (2) 会長の職務執行状況報告書について (3) 令和3年度女川町地域福祉活動計画等の進捗状況について (4) 令和2年度第5次女川町地域福祉活動計画の事業評価について (5) 寄附金の採納状況について (6) 評議員の退任について
第4回	会 期	令和4年2月25日
	理事定数	9名
	出席理事	9名・監事2名
	議 案	議案第16号 社会福祉法人女川町社会福祉協議会職員の給与に関する 規程の一部を改正する規程について 議案第17号 令和3年度社会福祉法人女川町社会福祉協議会会計補正 予算(第2号)について 議案第18号 評議員会の招集について
	報告事項	(1) 令和3年度女川町地域福祉活動計画等の進捗状況(下半期)につ いて
第5回	会 期	令和4年3月17日
	理事定数	9名
	出席理事	7名・監事1名出席
	議 案	議案第19号 社会福祉法人女川町社会福祉協議会職員の給与に関する 規程の一部を改正する規程について 議案第20号 社会福祉法人女川町社会福祉協議会臨時職員等就業規則 の一部を改正する規則について 議案第21号 令和3年度社会福祉法人女川町社会福祉協議会会計補正予 算(第3号)について

	<p>議案第 22 号 令和 4 年度社会福祉法人女川町社会福祉協議会事業計画について</p> <p>議案第 23 号 令和 4 年度社会福祉法人女川町社会福祉協議会会計資金収支予算について</p> <p>議案第 24 号 評議員会の招集について</p>
報告事項	<p>(1) 会長の職務執行状況報告書について</p> <p>(2) 会長専決・決裁報告事項について</p> <p>(3) 寄附金の採納状況について</p>

### 監事会

期 日	令和 3 年 5 月 27 日
監事定数	2 名
出席監事	2 名
内 容	<p>令和 2 年度における次の項目について監査を受けた。</p> <p>(1) 理事の職務の執行状況</p> <p>(2) 事業報告</p> <p>(3) 事業報告の附属明細書</p> <p>(4) 計算書類（資金収支計算書及び事業活動計算書・貸借対照表）</p> <p>(5) 計算書類の附属明細書</p> <p>(6) 財産目録</p>

### 評議員会

第 1 回	会 期	令和 3 年 6 月 25 日
	評議員定数	15 名
	出席評議員	13 名・会長・監事 2 名
	議 案	<p>議案第 1 号 令和 2 年度社会福祉法人女川町社会福祉協議会事業報告の承認について</p> <p>議案第 2 号 令和 2 年度社会福祉法人女川町社会福祉協議会会計収支決算の承認について</p> <p>議案第 3 号 役員を選任候補者について</p>
	報告事項	<p>(1) 評議員の退任について</p> <p>(2) 評議員の選任について</p> <p>(3) 社会福祉法人女川町社会福祉協議会職員の育児・介護休業等に関する規則の一部改正について</p>

第 2 回	会 期	令和 3 年 11 月 19 日
	評議員定数	16 名
	出席評議員	14 名・会長・監事 2 名
	議 案	議案第 4 号 令和 3 年度社会福祉法人女川町社会福祉協議会会計補正予算（第 1 号）について
	報告事項	<p>(1) 臨時職員の退職等について</p> <p>(2) 評議員の退任等について</p>

		(3) 役員賠償責任保険の契約について (4) 社会福祉法人女川町社会福祉協議会職員の給与に関する規程の一部改正について (5) 令和3年度女川町地域福祉活動計画等の進捗状況について (6) 令和2年度第5次女川町地域福祉活動計画の事業評価について
第3回	会 期	令和4年3月8日
	評議員定数	16名
	出席評議員	13名・会長・監事2名
	議 案	議案第5号 令和3年度社会福祉法人女川町社会福祉協議会会計補正予算(第2号)について
	報告事項	(1) 社会福祉法人女川町社会福祉協議会職員の給与に関する規程の一部改正について (2) 令和3年度女川町地域福祉活動計画等の進捗状況(下半期)について
第4回	会 期	令和4年3月29日
	評議員定数	16名
	出席評議員	13名・会長・監事2名
	議 案	議案第6号 令和3年度社会福祉法人女川町社会福祉協議会会計補正予算(第3号)について 議案第7号 令和4年度社会福祉法人女川町社会福祉協議会事業計画について 議案第8号 令和4年度社会福祉法人女川町社会福祉協議会会計資金収支予算について
	報告事項	(1) 職員の採用等について (2) 社会福祉法人女川町社会福祉協議会職員の給与に関する規程の一部改正について (3) 社会福祉法人女川町社会福祉協議会臨時職員等就業規則の一部改正について

### ③評議員選任・解任委員会の開催

評議員選任・解任委員会		
第1回	会 期	令和3年6月22日
	委員定数	3名
	出席委員	3名
	審議事項	評議員の選任について
第2回	会 期	令和3年11月19日
	委員定数	3名



回	出席委員	3名
	審議事項	評議員の選任について

## (2) 会員募集に関すること

会員（一般・賛助・特別）の加入促進及び増強

区 分	会費の額	件 数	前年度実績	増 減
一般会費	2,716,200 円	2,265 件	2,741,400 円	△25,200 円
賛助会費	260,000 円	52 件	265,000 円	△5,000 円
特別会費	500,000 円	50 件	420,000 円	80,000 円
合 計	3,476,200 円	2,367 件	3,426,400 円	49,800 円

## (3) 地域福祉活動計画の進行管理等に関すること

### ①地域福祉活動計画の進捗管理及び評価の実施

計画の進捗状況については各部署において半期毎年2回実施し、また、事業評価については年1回「評価シート」を用いて各部署による自己点検と評価を行い、理事会及び評議員会において報告している。

## (4) その他

寄附採納状況

区 分	寄附の額	件数	前年度	増減
一般寄附	399,881 円	28 件	962,836 円	△562,955 円
物品寄附	0 円	0 件	0 円	0 円
合 計	399,881 円	28 件	962,836 円	△562,955 円

## 2 地域福祉活動

### 1) 一人ひとりが自分らしく暮らせる地域

#### (1) 住民の権利擁護の実現

- ①地域における権利擁護の体制づくり
- ②日常生活自立支援事業「まもり一ぶ」の周知・活用
- ③住民参加による権利擁護の理解・促進
- ④市民後見人の養成に向けた働きかけ
- ⑤虐待防止に向けた情報発信
- ⑥法人後見により自己実現支援
- ⑦法人後見業務の強化

#### 【取り組み】

- 日常生活自立支援事業（まもり一ぶ）の実施

項目	人員	派遣回数等	備考
生活支援員の配置	1名	36回	※支援員に代わり、本部の専門員が対応 ※訪問頻度：利用者により週1回～月1回 ※社協職員支援回数13回
サービス利用者の登録	H17年4月～1名（内訳：知的障害1名） R3年8月～2名（内訳：知的障害1名、認知症高齢者1名）		
利用に係る判定会議		8回	石巻圏域利用者の判定に係る会議への出席

10/21（木）まもり一ぶ運営適正会議・調査（リモート）

○成年後見制度における後見業務の実施

類型（種別）	対象者	訪問回数等	内容
保佐	3名	168回	※被保佐人の財産管理、身上監護、福祉サービス等の申請代行手続き、緊急対応や受診同行 また、家庭裁判所へ後見等事務報告 ※年度始めの被保佐人対象者は3名であったが、令和3年10月に1名の被保佐人が逝去したため、令和3年度末時点の対象者は2名となった
	R3年10月～ 2名		

○関係機関と連携した相談支援

- ・「まもり一ぶ」利用者の支援回数は増加傾向にあるなか、複雑な課題を抱える利用者の相談ケースも増えており、関係機関と協力・連携し支援に取り組んだ。

○広報紙やつどいの場等さまざまな機会を活用し、事業内容を周知することで、必要な人が活用できるよう支援した。

- ・民協定例会での日常生活自立支援事業「まもり一ぶ」の情報周知
- ・社協だより12月号に「障害者の人権尊重」について周知掲載

○権利擁護に関する研修会の開催

- ・未実施

○市民後見制度の啓発

- ・未実施

○虐待防止に向けた情報発信

- ・民協定例会での啓発
- ・社協だより10月号に虐待防止の啓発掲載

○身上に寄り添った自己実現支援

- ・様々な状況下でありながらも、自己実現に向けた支援

○福祉学習の実施

- ・未実施

○定期的な被後見人の状況把握とケース検討

- ・工夫しながら状況把握を行った。

○研修会への参加

- ・8/19（木）第1回福祉教育学習会へのオンライン参加
- ・9/15（水）第2回福祉教育学習会へのオンライン参加
- ・10/22（金）福祉教育推進員意見交換会へのオンライン参加

- ・ 2 / 24 (木) 権利擁護セミナーへのオンライン参加
- ・ 3 / 8 (火) K-ねっと全国セミナーへのオンライン参加

**【取り組みに関する評価及び課題】**

- ◎法人後見人として高齢・障害により判断能力が低下した人に対して、日常的な金銭管理を代行することにより、在宅での安心した生活を提供した。また、利用者と今後の方向性についても話し合いながら関係機関とともに支援を行った。
- ◎高齢者や障害者の日常生活を支援するため「まもり一歩」の機能の充実や職員の資質向上に努めるとともに、関係機関と連携し利用者へ適切なサービス提供を行った。
- 判断能力の低下により「まもり一歩」契約及び利用継続が難しくなった利用者がある場合は、成年後見制度利用を検討し社協法人後見事業による支援に移行できるようにする。
- 住民が福祉や権利擁護について正しい知識を持ち福祉活動への参加意識を高められるよう、福祉・人権教育の推進を図る必要がある。

**(2) 健康な心と体づくり**

- ①心身の健康づくりや介護予防の取り組み
- ②地区自主活動の場を活用した意識啓発と取り組み支援
- ③地域のお世話役等の育成

**【取り組み】**

- 地域活動の情報収集
  - ・「遊びり・ふまねっと」の場における情報収集
  - ・ペタンク・グラウンドゴルフの場における情報収集
- 地域活動における関係者との調整
  - ・出前講座の調整と社協だより 10月号での周知掲載
- リーダー育成における健康づくり、介護予防の研修紹介
  - ・福祉活動推進員、民生児童委員等への参加周知

**【取り組みに関する評価及び課題】**

- ◎高齢者が住み慣れた地域で、いつまでも生き生きとした生活が送れるよう、介護予防をはじめ孤立感や不安感の解消を図ることを目的に、参加者に交流の場を提供することができた。
- ◎関係機関と連携し、地域の高齢者の心身の健康の維持のために必要な援助に努めた。
- 感染症に留意し開催する必要がある。

**(3) 社会参加へのきっかけづくり**

- ①自立お茶会やサークル活動の発足支援・継続支援
- ②住民が多種多様な生きがいを持ち、意欲的な生活ができるような支援

**【取り組み】**

- 生活支援コーディネーターによる地域支援
  - ・社協だよりでの地域活動紹介
  - 生活支援コーディネーターの「いいものみ〜つけ！」
- 集いの場づくり
  - ・老壮大学の周知協力

・用具貸出し（コミュニケーション麻雀、室内用ペタンク、ディスコン、カラオケ等）

○個人の特性に応じた活動ができるような情報提供とサポート

・行政機関、民間事業所等の出前講座コーディネート

**【取り組みに関する評価及び課題】**

◎お茶会は地域の集いの場として重要であるため、内容の充実を図るのに関係機関と連携し継続支援することができた。

◎本会が保有する用具を、地域交流のために有効活用してもらうことを目的に貸出しを行った。

●お茶会の拡充を図るため、今後はボランティアセンターと連携し新たなボランティア発掘・育成に向けた講座を企画するとともに、既存お茶会が継続して活動できるよう支援する。

●お茶会がない地域の立ち上げに向けて支援する。

●用具の老朽化により、貸出用具の整備が必要な時期にある。

支援内容	具体的な取組みと支援地域（支援回数）
○各地区のお茶会支援 【6地区17回】	旭が丘（1回）、上三（4回）、西（5回） 石浜（2回）、竹浦（1回）、尾浦（4回）
○生涯学習出前講座活用の案内 【8地区14回】	上三（1回）、西（1回）、女川南（1回） 大原北（1回）、大原南（2回）、宮ヶ崎（2回） 石浜（3回）、尾浦（3回）
○用具貸出し	20件
○民間事業所等の出前講座活用の案内	「コミュニティスペースうみねこ」による地域支援活動への協力 ・猿回し公演 ・藍染体験 ・写真撮影講座 ・苔テラリウムづくり ・クリスマスリースづくり ・お正月飾りづくり ・カレンダー封筒づくり ・地域カレンダーづくり ・いちご狩り

2) 互いが支えあう地域

(1) ボランティア活動の活性化

(1) ボランティアセンター機能の強化

①新規登録者の確保

②広報・啓発活動の充実

(2) ボランティア活動の促しと行政区内での活動者の発掘と地域活動へのつなぎ

(3) 有償活動の仕組みづくりに向けた協議・検討の実施

**【取り組み】**

○ボランティア活動ハンドブックの作成

・作成に向けた情報収集として下記研修会へ参加した。

・7/20（火）第1回ボランティアコーディネーター研修へのオンライン参加

・8/24（火）第2回ボランティアコーディネーター研修へのオンライン参加

- ・10/12（火）第3回ボランティアコーディネーター研修へのオンライン参加

○広報紙とホームページの充実

- ・社協だより4月号でのボランティア保険加入の周知のための掲載
- ・社協ホームページを活用しながら情報発信を行った。
- ・社協だよりでのボランティア活動紹介  
生活支援コーディネーターの「いいものみ～っけ！」

○ふれあいサロン等の立ち上げ支援

- ・社協だよりへの掲載による立ち上げ支援の周知

○運転ボランティアの人材育成

- ・未実施

【取り組みに関する評価及び課題】

◎ボランティア保険への加入促進を図り、ボランティアが安心して活動ができるよう支援することができた。

- 一人でも多くの住民にボランティアについて興味を持ってもらえるよう、様々な手段を活用し情報発信に努め、ボランティアの相談窓口として充実を図る必要がある。
- コロナ対策を行いながら、広く住民に関心を持ってもらえるような講座を開催し、ボランティアリーダーの発掘・育成を図っていく必要がある。
- ボランティアのニーズ等が多様化しているため、ボランティアしたい人としてほしい人のマッチングが難しいケースが増えている。

内 容	具体的な取組み
○広報紙を活用した事業周知	社協だよりでのボランティア活動紹介 生活支援コーディネーターの「いいものみ～っけ！」 6回/年
○掲示板・ウェブサイトの活用	通年
○ボランティア登録への促し	個人登録7人/団体登録7団体109人
○ボランティアの育成と派遣	活動延べ件数9件/活動延べ人数20人
○個別ニーズのコーディネート	1件

(2) 住民主体による支えあい活動の活性化

(1) 地域での見守り体制の推進

- ①情報交換や協議の場づくり
- ②支えあい意識を高めるための取り組み
- ③自身が発信できるツールを見つけるための啓発や支援
- ④地域のリーダー育成
- ⑤救急医療情報キットの配布と活用

(2) 地域課題と解決するための協議の場づくり

- ①座談会の開催
- ②地区役員への福祉意識の啓発

(3) 住民同士の支えあいによる生活支援の展開

- ①資源開発

②生活支援サービスについての調査・検証

【取り組み】

- 地域団体の交流促進と活性化
  - ・老人クラブ等の会合の場における支えあい意識の啓発
- 声がけの推進
  - ・お茶会等の開催における声がけの推進
- あいさつの推進
  - ・登下校時における子どもたちの見守り活動推進
- リーダー育成講座の開催
  - ・4/22(木)、4/28(水)、12/20(月)福祉活動推進員情報交換会の開催
- 救急医療情報キットの配布と啓発
  - ・社協だより2月号への掲載による啓発
  - ・民生委員等による、キット配布 本年度53世帯54本(令和3年度末770世帯1,075本)
- 座談会の開催支援
  - ・地域づくり会議(地区座談会)への参加 20地区
- 福祉出前講座の実施
  - ・実施に向け社協だより12月号に周知掲載
- 住民主体の地域事業への支援
  - ・地区の見回り、見守り活動への同行支援 4地区
- 住民ニーズの把握と反映
  - ・老人クラブ等の会合への参加における住民ニーズの把握

【取り組みに関する評価及び課題】

- ◎各種団体が登下校時に通学路に立ち、見守り活動が実施できるよう声がけを行った。
- ◎生活支援体制整備事業と連携し地域福祉づくりに向けて取り組んだ。
- ◎生活支援体制整備事業を進める中で、地域福祉に積極的に取り組む人材を育成し地域福祉推進のリーダーとして連携を図った。
- 新たな活動団体を増やすため、積極的に事業PRを行い見守り活動の充実を図る。
- 行政区に積極的に働きかけ、住民主体のサービスなど、新たな社会資源の開発を行いながら地域で支えあえる体制整備に向け取り組む必要がある。

把握方法	対象地区
○地区座談会・情報交換会による把握【20地区】	大沢、浦宿一、浦宿二、浦宿三、針浜、旭が丘、上一、上二、上三、西、小乗、女川北、女川南、大原北、大原南、清水、宮ヶ崎、石浜、竹浦、尾浦
○見回り活動との情報交換【4地区】	浦宿二、上二、上三、大原北

(3) 支えあうためのネットワークの充実

- ①企業や商店街等を対象に地域福祉活動への理解と参加の啓発
- ②地域づくり会議(仮)の開催
- ③支援種別(テーマ別)に応じたネットワーク会議(プラットフォーム)の開催
- ④地域と関係者との連携
- ⑤関係機関との連携

## 【取り組み】

- 広報紙「社協だより」の配布
  - ・本会の賛助・特別会員である企業への社協だより発行時の配布
  - ・本会の賛助・特別会員企業向けに「社協だより onagawa town」発行（11月）
- 生活支援体制整備事業第一層協議体の開催
  - ・9/29（水）第一層協議体の開催
- 女川町地域ケアネットワーク会議への参加
  - ・健康福祉課主催による月1回開催の会議への参加
- 地域個別ケア会議・地域ケア会議の開催
  - ・地域包括支援センター等主催のケア会議への参加
- 生涯学習課・健康福祉課・社会福祉協議会事務打合せ会への参加
  - ・5/6（木）生涯学習課・保健センターとの打合せ会への参加
  - ・3/23（水）生涯学習課・保健センターとの打合せ会への参加

## 【取り組みに関する評価及び課題】

- ◎町と連携を図りながら、各機関が地域住民の保健、福祉、医療に関する様々な課題に対して、解決に向けた取り組みができるよう制度等の情報提供を行った。
- 地域包括ケアシステムの構築向け、町・関係機関との連携を図りながら、住民が主体となり地域福祉活動が展開できるよう更なるネットワークの強化を図る必要がある。

## 3) 誰もが安心して暮らせる地域

### (1) 相談しやすい環境整備

- ①相談員の質の向上
- ②総合相談ケアパスの作成
- ③地域内で相談できる仕組みづくり
- ④相談窓口の周知・情報提供

## 【取り組み】

- 対人援助向上等スキルアップ研修の企画、開催
  - ・民協定例会における事例検討の開催
- 相談対応フローチャート及び住民向け総合相談ケアパスの作成
  - ・未作成
- 地域内相談対応の仕組みづくり
  - ・社協だより6月号・8月号に福祉活動推進員の活動紹介を記載
  - ・社協だより2月号に生活支援体制整備事業の取り組みを掲載
- 支部長、福祉活動推進員、民生児童委員等の研修開催
  - ・4/22（木）、4/28（水）、12/20（月）福祉活動推進員情報交換会の開催
  - ・民協定例会における事例検討を用いた研修の実施
- 様々な手段による住民目線の情報提供
  - ・支部長、福祉活動推進員、民生児童委員による相談窓口の周知・情報提供の実施

## 【取り組みに関する評価及び課題】

- ◎相談機関として窓口を開設し、相談者の心配ごとへの緩和・解消に努めながら安心して生活を送れるよう努めた。
- ◎地域で暮らす高齢者等が安心して在宅生活を送れるよう支援するため、総合的な相談や助

言、関係機関との調整を行った。

- 全体的に相談件数が少ない状況にあるため、相談窓口の周知方法を工夫する必要がある。
- 地域の中で誰もが必要な福祉サービス等を安心して利用できるよう、相談活動や情報提供の充実を図る必要がある。

## (2) 情報の活用促進

- ①ホームページ・社協だより・リーフレット・SNS等の活用
- ②相談窓口の周知
- ③集いの場を活かした情報提供
- ④地域の発信力を高めるために、地域が住民に対して情報発信できるような促し
- ⑤情報提供のバリアフリー
- ⑥リーダーに情報提供（質の良い）し、口コミで伝えてもらう
- ⑦情報収集

### 【取り組み】

- 社協だよりの発行やホームページの充実、リーフレットの作成、SNSによる情報発信・偶数月の社協だより発行（3,200部/月）

事業名	事業費	財源内訳		
		共同募金配分金	ボランティア基金	その他
社協だより発行	496,320円	396,320円	100,000円	0円

- ・本会ホームページによる社協だより配信
- 住民の相談内容に応じた窓口の周知
  - ・必要に応じ相談機関の周知・紹介
  - ・社協だより10月号に相談機関一覧の周知掲載
- 住民活動の場を活かした情報提供
  - ・お茶会等の場における情報提供
- 地域や住民への情報発信の促し
  - ・地域活動を社協だよりに掲載することによる促し
  - ・社協だより10月号にふれあい福祉バス、車いす用リフトカー、車いす貸出しについて掲載
- ふれあい福祉バス貸出件数 延べ19団体、233名利用（老連・身障協会・スポーツ団体等）
- 車いす用リフトカー貸出件数 23件
- 車いす貸出件数 3件
- 偏りが生じない情報の提供
  - ・特定の年代などに偏った情報提供にならない社協だよりの発行
- 住民に対する確実な情報の提供
  - ・生活支援コーディネーター等による直接的な働きかけ
- 地域での活動者と情報交換による情報収集
  - ・老人クラブ等の会合への参加による情報収集

### 【取り組みに関する評価及び課題】

- ◎社協だよりを年6回発行し、自治会を通じて全戸配布し、社協の活動や取り組みを周知することができた。また、ホームページを随時更新し、情報の発信に努めた。
- 住民の地域福祉事業に対する理解や福祉活動への参加を得るため、積極的な広報・啓発活動



を実施していく。

- より多くの住民が地域活動に参加できるよう、様々な方法で地域活動に関する広報・啓発活動について検討する必要がある。
- 最新情報を発信するため、ホームページの充実を図っていく。

### (3) 生活困窮者への支援

- ①相談窓口の周知
- ②関係機関との協働支援
- ③フードバンク（ネットワーク）の支援の確立
- ④生活福祉資金・生活安定資金の活用
- ⑤多様な貸付制度の周知・紹介

#### 【取り組み】

- 広報紙「社協だより」等による周知
  - ・社協だより 8月号・2月号での生活福祉資金特例貸付制度周知のための掲載
  - ・社協だより 12月号に生活福祉資金貸付制度の内容を掲載
- 関係機関との協働支援
  - ・自立相談支援機関との協働支援
- 生活困窮者の相談対応
  - ・延べ56件の相談対応（実件数44件）
- フードバンクの実施
  - ・提供回数32回（10人）
  - ・社協だより4月号でのフードバンク周知のための掲載
  - ・広報おながわ11月号・2月号でのフードバンク周知のための掲載
- 生活福祉資金・生活安定資金の貸付
  - ・相談件数：延べ件数44件（実件数32件）

延べ件数	電話	来所	E-mail	FAX	その他
	39件	3件	0件	0件	2件

#### ・資金内訳

資金種別 (延べ件数)	生活福祉資金	(特例) 緊急小口資金	生活安定資金	援護費
	18件	19件	4件	3件

※資金借入申請等に至らなかった件数及びその他 12件

#### ・生活福祉資金貸付調査委員会及び生活安定資金運営委員会の開催

日付	会議名	内容
R3.11.1	令和3年度第1回生活福祉資金貸付調査委員会及び第1回生活安定資金運営委員会	(1) 令和3年度上半期生活福祉資金貸付状況及び生活安定資金運営状況について
R4.3.30	令和3年度第2回生活福祉資金貸付調査委員会及び第2回	(1) 生活福祉資金（教育支援資金教育支援費）の貸付状況について

	生活安定資金運営委員会	(2) 令和3年度生活福祉資金貸付状況及び生活安定資金運営状況について
--	-------------	-------------------------------------

・生活福祉資金の債権管理業務状況 (単位:円)

生活福祉資金	令和3年度当初		令和4年3月末状況					
	貸付件数	償還残額	件数	年間償還額	償還残額	内訳	元金	2,071,784円
	7件	10,398,936円	5件	335,000円	10,319,419円		延滞利子	8,247,635円

  

(特例)緊急小口資金	令和3年度当初		令和4年3月末状況					
	貸付件数	償還残額	件数	年間償還額	償還残額	内訳	元金	1,718,254円
	31件	5,293,819円	26件	869,175円	4,116,263円		延滞利子	2,398,009円
							償還完了件数	3件
ゼロ償還件数							1件	

※1 R3年度生活福祉資金総合支援資金特例貸付 生活支援費 18件:9,200,000円

※2 R3年度特例緊急小口資金貸付 19件:3,800,000円

・生活安定資金の債権管理業務

令和4年3月末現在					
貸付状況		償還状況			償還残額
新規貸付件数	新規貸付金額	償還金額	うち償還完了	償還免除	
4件	240,000円	202,000円	1件	0件	246,000円

○緊急一時援護費の支給 (生活援護費・災害見舞金)

申請件数	申請額	支給額
3件	47,000円	47,000円

○多様な貸付制度の周知・紹介

- ・相談時に多様な制度の周知・紹介
- ・本会ホームページでの年末年始等、関係機関で実施している生活困窮者対応窓口を周知

○研修会への参加

- ・10/28(木)生活困窮者支援推進セミナーへのオンライン参加

【取り組みに関する評価及び課題】

- ◎新型コロナウイルス感染症の影響に伴う特例貸付の相談対応において、借入申請等だけではなく、個々の状況に応じて貸付決定までのつなぎとして、フードバンクいしのまきとの連携による食糧支援へ取り組んでいる。
- ◎相談対応時に資金面での支援だけでは、生活の安定が図ることのできない恐れのある世帯については、生活困窮者自立相談支援機関との連携による家計改善や就労支援等、早期での生活安定が図れるよう取組んだ。
- 一方で、困窮世帯ではあるものの、資金の借入等、各種制度の利用へ至らないケースもあることから関係機関との連携による相談対応を行う必要がある。

(4) 災害時支援のための協働

- ①町と協働で避難行動要支援者名簿の作成
- ②要配慮者等との避難訓練の実施
- ③防災・災害時に備えた訓練
- ④ボランティア人材の確保
- ⑤被災地区以外からの支援者派遣

**【取り組み】**

- 避難行動要支援者名簿の作成（協力）
  - ・名簿作成に向けた働きかけ
- 要配慮者等との避難訓練の実施
  - ・出前講座を活用しての防災座談会実施協力 2地区（西、清水）
- 災害ボランティアセンター立ち上げ訓練の実施
  - ・女川中学校3年生の防災学習の協働
  - 11/11「災害ボランティアセンター運営訓練」
- 災害ボランティア講座の開催
  - ・未実施
- 町内ボランティア派遣による災害支援
  - ・災害支援を見越した派遣体制の構築

**【取り組みに関する評価及び課題】**

- 災害ボランティアセンター設置訓練を実施し、災害時に迅速な対応ができるよう訓練を行う。
- 災害時に地域で助けあい支えあえるようボランティアの人材確保と資質向上に努め、迅速に対応できるよう防災についての知識を学ぶため災害ボランティア講座の開催を目指す。
- 災害時にボランティアと連携し迅速かつ十分な救援活動・ボランティア活動の支援を行うことができるよう、災害時対応マニュアルを作成していく。
- 活動支援のために若いボランティア人材を確保できるように取り組んでいく。

**4) 組織の基盤強化**

**(1) 人材の育成と確保**

- ①内部・外部研修による職員のスキルアップ
- ②長期的な人員の配置計画による人材の確保
- ③資格取得の推奨

**【取り組み】**

- 内部研修の実施
  - ・未実施
- 外部研修への参加
  - ・オンラインなどを活用した研修会への参加
- 計画的な人事管理
  - ・中長期的な職員採用等の人事管理計画を策定済
  - ・策定した人事管理計画に基づき人事管理を行っている。
- 業務内容と人員配置の見直し

・当初の分掌事務に基づき業務を行った。

○資格を取得しやすい環境づくり

・業務に関連する資格取得時の職専免適用と組織を挙げての業務サポート体制構築と資格取得に係る情報提供

**【取り組みに関する評価及び課題】**

◎オンラインでの研修会が多く開催されており、移動時間の短縮など有効に時間を使えることにより、研修の選択肢が広がった。

◎職員のライフイベントに合わせた人事管理計画を策定することで内部での資格取得の必要性や人員配置などの展望を描くことができた。

●退職などによる欠員が生じた場合の確実な補充対策が必要。

**(2) 経営基盤の強化**

①会員募集の拡大

②行政・民間の補助金や受託事業の活用

③計画的な予算の執行

④中長期の財源計画の策定

**【取り組み】**

○ホームページを活用した会員募集

・リニューアルしたホームページを活用した会員募集の実施

○行政や各種団体補助金の申請と活用

・町補助金については計画どおり申請を行った。

○受託事業の見直し

・次年度に向け、担当課と協議等を行った。

○部署ごとの予算管理、執行

・係長等会議で予算の執行状況を定期的に提示し部署ごとでの予算管理と執行を行った。

○実績額に基づいた予算措置

・予算執行状況の確認を行いながら、本年度予算の執行額に基づいた補正予算の編成準備を行った。

○中長期の収支予算見込の算定

・未実施

○中長期の財源確保に向けた検討や協議

・未実施

**【取り組みに関する評価及び課題】**

◎ホームページのほか、社協だよりなどでも会員募集を積極的に行った。

●財源確保に向けては、本会が今後取り組むべき内容を精査していくことが必要であり、そのうえで民間助成金などを活用し、財源確保に努めていく。

# ボランティアセンター

## 1. ボランティア活動

地域・団体・個人からのニーズに町民ボランティアをコーディネートした。活動延べ件数は、新型コロナウイルスの影響もあり昨年度より更に減少した。

### ①ボランティア活動延べ件数／活動延べ人数（※カッコ内は昨年比）

月	活動件数			活動人数		
	町外	町内	合計	町外	町内	合計
4						
5		4	4		9	9
6		3	3		7	7
7		1	1		2	2
8						
9		1	1		2	2
10						
11						
12						
1						
2						
3						
合計	0(0)	9(-10)	9(-10)	0(0)	20(-22)	20(-22)

### ②支援先別ボランティア活動延べ件数

	交 流	災 害 支 援	作 業	託 児	芸 能	生 活 支 援	イ ン ト 手 伝 い	講 師	福 祉 教 育	清 掃	防 災 教 育	広 報 配 達	合 計
団 体	1			7									8(-5)
個 人						1							1(-4)
地 区													0(-1)
合 計	1	0	0	7	0	1	0	0	0	0	0	0	9(-10)

## 2. ニーズ受付

個人からの依頼は地域包括支援センターの仲介であった。なお、団体・地区からの依頼は新型コロナウイルスの影響により活動自粛が見られたことから更に減少した。

依頼元別ニーズ受付件数

	災害支援	託児	交流	芸能	講師	生活支援	作業	イベント手伝い	清掃	防災	修理	合計
団体		7	1			1						9(+2)
個人												0(-3)
地区												0(-1)
合計		7	1	0	0	1	0	0	0	0	0	9(-2)

## 3. ボランティア活動の受け入れ要請

新型コロナウイルスの影響により、町外からの支援活動の受け入れ要請はなかった。

内容別活動受け入れ要請延べ件数

	要請数	受け入れ	調整不可
作業			
芸能			
合計	0(0)	0(0)	0(0)

## 4. 団体活動支援

ボランティア派遣で各種団体の支援を行った。

団体別活動支援延べ件数

	ボランティア派遣	講師対応	地域との仲介	事業協力	情報提供	周知協力	資材提供	合計
高齢者施設								0
女川町	3							3
障害者施設								0
学校								0
イベント経験								0
NPO								0
子育てサークル								0
ボランティア団体								0
商工観光								0
医療								0
サロン								0
神社仏閣								0
当事者団体	1							1
合計	4	0	0	0	0	0	0	4(-8)

## 5. 地域活動支援

新型コロナウイルスの影響により要請なし。

内容別地域支援延べ件数

ボランティア派遣	講師対応	出前講座の仲介	情報提供	連絡調整	合計
					0(-13)

## 6. 個人支援

個別支援件数は、支援機関からの情報提供のもと、支援に繋がった。

依頼元別個人支援件数

	ボランティア派遣	連絡調整	面談同行	有償活動の紹介	情報提供	物資提供	状況確認	緊急対応	合計
直接									0
支援機関	1								1
知人家族									0
民生委員									0
合計	1	0	0	0	0	0	0	0	1(-2)

## 7. ボランティア登録

ボランティア個人登録者数

既登録者	登録解除者	新規登録者	全登録者数
15	9	1	7(-8)

## 8. ボランティア保険加入

ボランティア保険加入件数

個人加入	団体加入	合計人数
7(-8)	7(-3)	109(-37)

## 9. 行事保険加入

行事保険加入者数

加入件数	合計人数
8(-6)	210(-136)

## 10. 事業評価及び課題

### (1) コーディネート機能（相談・登録・斡旋・連携・協働）

ボランティアマッチングの要請も少なく、マッチングできる個人ボランティアは高齢のボランティアが主である。

登録したボランティアの特性に合った活動を提供し、フォローアップ相談を行っていく。

### (2) 情報提供活動

ボランティア保険への加入促進を図り、ボランティアが安心して活動ができるよう、社協だよりにて情報提供を行った。

ボランティア活動について社協だより、ホームページを活用し、ボランティアセンターの機能等について周知徹底していく。

### (3) グループ活動の支援

グループ活動のマネリ化や会員参加の少なさが課題であることから、他の様々なグループにも協力してもらいながら新規のアイデアを考えるとともに、町外のボランティアグループとも連携した支援に取り組んでいく。

### (4) 養成・研修事業

他の事業と結びつけて、一般住民向けボランティア講座を実施できるよう取り組んでいく。

ボランティア講座の受講後にボランティア活動を支援するフォローアップ等が必要である。また、ボランティア活動の機会を提供できるようにする必要もある。

小学生のころからボランティア体験をすることで、ボランティア精神を養うことができ、今後の福祉活動に繋げることができるよう取り組んでいく。



# 女川町地域包括支援センター

## ◎地域包括支援センターの運営

女川町第8期介護保険事業計画の実施初年度となり、基本理念であるすべての高齢者が生涯にわたり、「生きがいを持ちながら健やかで安心して暮らしていける社会の実現」を目指し事業を推進した。

また、「地域づくり」を根底におきながら、高齢者が地域で安心して生活を続けられるネットワークを構築し、包括的・継続的な支援を行い、地域包括ケアの実現に向け取り組んだ。また、運営にあたっては、新型コロナウイルス感染症対策など社会背景も勘案しながら、地域、関係機関と協議を行い、住民にとって不利益が生じないように各事業を展開した。

### 1 一般介護予防事業

#### (1) 介護予防普及啓発事業

より多くの住民が自分自身の心と体に関心を持ち、その人らしく生活が送れるように、介護予防の基本的な知識について紙面や集いの場を活用し事業を推進した。

#### ①包括支援センターだよりの発行

- ・月1回 おながわ広報紙面活用

#### ②介護予防普及・啓発パンフレットの作成、配布

- ・新型コロナウイルス感染症対策
- ・自粛生活によるフレイル対策
- ・熱中症予防、ヒートショック予防について

#### ③集いの場に参加した方への介護予防手帳の配布と活用

#### ④地域遊びリテーションの実施【講師：健生（株）】

対象地区	結 果	
	4月～9月	10月～3月
18 か所 【月1回】 石浜 【年6回】 大沢・針浜・西・上一・上二・女川北・ 女川南 【年3回】 浦宿一・浦宿二・浦宿三・上三・小乗・ 旭が丘・宮ヶ崎・清水・大原北・大原南	30回（延べ226人） うち ミニ体力測定 10か所 （延べ75人）	40回（延べ286人） うち ミニ体力測定 8か所 （延べ51人）

⑤ふれあいサロンの実施【講師：ぱんぷきん（株）】

対象地区	結 果	
	4月～9月	10月～3月
15か所 【年6回】 大沢・針浜・西・上一・女川北 【年3回】 浦宿一・浦宿二・浦宿三・上三・小乗・ 旭が丘・宮ヶ崎・清水・大原北・ 大原南	30回 (延べ190人)	14回 (延べ102人)

⑥巡回握力テスト

測定地区	参加人数	男	女	平均年齢
13地区	139人	60人	79人	77.5歳

⑦離島ミニ体力測定

開催場所	日 時	参加人数
出島集会所	7月26日	7人
江島集会所	9月15日	11人

⑧包括出前いきいき講座

開催地区	日 時	内 容	参加人数
西区	4月13日	認知症サポーターステップアップ講座・ 脳活回想法	11人
上三区	7月12日	介護保険制度について	9人
尾浦区	8月18日	介護保険制度について・脳トレ	8人

【評価】

遊びリテーションやふれあいサロンは、コロナ禍により2年間参加者が減少している状況に対し、ペタンク活動はどの地区も積極的に行われていることから、ペタンク会場を巡回し握力測定を実施。その結果を老壮大学にて報告することで、自分の筋力の状態への関心を持てるように啓発することができた。

集いの場を活用した啓発活動については、介護保険制度や相談窓口について知ってもらう機会とした。改めて『講座』という形式ではなく、地域主催の集いの場を活用し、気軽に聞ける雰囲気の中で啓発活動を行っていくのが効果的と思われる。

(単位：円)

項目	事業費	財源内訳		
		委託料	介護報酬 (ケアプラン作成料)	補助金
介護予防普及啓発事業 ・遊びリテーション ・ふまねっと ・広報等啓発 ・包括出前いきいき講座	2,408,014	2,408,014	0	0

## (2) 地域介護予防活動支援事業

生きがいや社会参加のきっかけとなるように、自らが必要な介護予防に関する知識・技術を習得し、継続して実践できるよう事業を推進した。

また、その経験を地域活動の中で活かすことができるよう担い手育成に努めた。

## ① 地域のお世話役育成「ぴんぴん元気推進塾」フォローアップ講座

日時	内容	参加者
12月13日	一般財団法人宮城県公衆衛生協会研修会 「With コロナ時代の健康づくり」 オンライン研修 講演1 永富良一 教授 「人を繋ぐオンラインエクササイズ」 講演2 田中和美 教授 「100歳まで美味しく食べる」	参加者 22人 (対象者85人) 受講率 (25.9%)
3月15日	テーマ「コロナ禍における運動不足と認知機能低下の解消」 ～スクエアステップと脳トレに挑戦～ 健生株式会社 林 かおる 健康運動指導士	参加者 29名 受講率 (34.1%)

## ② 福筋クラブ自主活動への支援（隔月2クラブ）

実施回数	開催場所	参加者
各会場 隔月	総合体育館	実8人 延べ15人
	勤労青少年センター	実12人 延べ22人
2チーム合同開催	総合体育館	16人

## 支援内容

支援月	内容
5月	ミニ体力測定

6月	ミニ体力測定結果説明と介護予防・健康づくりの取り組み
9月	総体チーム、勤労チーム合同介護予防・健康づくりレクリエーション
11月	ボール体操・ストレッチ・筋トレ・脳トレ
12月	ミニペタンク大会・今年のまとめ（今年の1文字発表）
1月	ストレッチ・脳トレウォーキング・スクエアステップ・転倒予防脳トレ
3月	今年度の評価・次年度計画作成

### 【評価】

自主活動の支援については、参加者の年齢が高いこともあり、積極的な開催に至らない状況もあったことから、今年度は隔月でフレイル予防講座を提供した。介護予防サポーターの活用も計画していたが、サークルメンバー内での調整が困難な状況であったことから、メンバー外のサポーターの活用も検討していく必要がある。

サポーター育成事業については、研修内容を参加したサポーターがいかに地域に広げられるかが今後の課題である。

またウォーキング人口の増加を目的とした事業展開については、保健介護予防の一体化事業の中で関係機関と連携し、計画の見直しから行う必要がある。

(単位:円)

項目	事業費	財源内訳		
		委託料	介護報酬 (ケアプラン作成料)	補助金
地域介護予防活動支援事業 ・地区リーダー育成 「元気推進塾」 ・福筋クラブ自主活動支援	214,171	214,171	0	0

### (3) 地域リハビリテーション活動支援事業

リハビリテーション専門職が通所、訪問、地域ケア会議、住民運営の通いの場等の介護予防の取り組みを総合的に支援できるよう事業を推進した。

①すまいの個別相談	4月～9月	2件
	10月～3月	2件

### ②住民の集いの場への支援

講座名	日時	開催場所	参加者
出島介護予防講座	9月7日	出島集会所	11人
江島介護予防講座	11月8日	江島集会所	11人

## 【評価】

介護保険サービスのつなぎとなる個別相談への対応を理学療法士に依頼。  
地域課題に対する協議は、地域ネットワーク会議にて行った。

今後も地域課題についての助言をもらえるよう多職種が集う地域ネットワーク会議に地域  
についての情報提供をしていく。

(単位：円)

項目	事業費	財源内訳		
		委託料	介護報酬 (ケアプラン作成料)	補助金
地域リハビリテーション 活動支援事業	55,722	55,722	0	0

## 2 包括的支援事業

### (1) 総合相談支援事業

地域のネットワーク及び関係機関や団体等と協働し、速やかに対応することで、その地域  
で安心したその人らしい生活を継続できるよう事業を推進した。

#### ①相談対応件数

相談形態	来所	電話	訪問	その他	合計
4月～9月	39件	95件	54件	1件	189件
10月～3月	53件	87件	69件	0件	209件

#### ② 相談内容 (重複あり)

相談内容	介護予防事業	総合相談支援	権利擁護業務	合計
4月～9月	6件	181件	2件	189件
10月～3月	0件	207件	2件	209件

#### ③相談概要

##### ア. 対象者

相談者	第1号被保険者	第2号被保険者	合計
4月～9月	85人	8人	93人
10月～3月	93人	3人	96人

イ. 相談者（重複あり）

相談者	本人	家族 親族	民生委員 児童委員 地区役員	役場	医療 機関	介護 事業所	社協	その他	合計
4月～9月	24人	30人	14人	20人	12人	4人	8人	4人	116人
10月～3月	25人	40人	3人	18人	15人	8人	6人	15人	130人

ウ. 相談内容（重複あり）

相談内容	介護(予防) サービス	介護予防 事業	福祉 サービス	権利 擁護	医療 相談	認知症	その他	合計
4月～9月	61人	8人	9人	2人	33人	32人	42人	187人
10月～3月	84人	10人	8人	4人	32人	33人	36人	207人

(単位：円)

項 目	事業費	財源内訳		
		委託料	介護報酬 (ケアプラン作成料)	補助金
包括的支援事業 ・人件費（3職種） ・消耗品費	18,430,291	17,137,000	1,293,291	0

(2) 高齢者の実態把握と地域におけるネットワークの構築

関係機関との会議や地域の集いの場を活用し、実態を把握しながら関係機関とネットワークを構築するよう推進した。

① ネットワーク構築に関する会議

区 分	4月～9月	10月～3月
地域ネットワーク会議	6回	6回
障害相談支援定例会	2回	2回
相談協力員研修	0回	1回
社協内部定例ミーティング等	6回	6回

※相談協力員研修

内 容：地域づくりにおける情報共有の在り方

～個人情報の取扱いと守秘義務の考え方～

講 師：社会福祉士 鈴木守幸 氏（元宮城県サポートセンター支援事務所長）

参加者：民生委員・児童委員 24人

### (3) 相談体制の充実と情報提供

関係機関との会議や地域の集いの場を活用し、実態を把握しながら相談しやすい窓口を目指した。また、年代を問わず、気軽に情報が得られるよう努めた。

- ・ホームページへの掲載
- ・広報への包括情報掲載（毎月）
- ・地域の集いの場を活用し、相談窓口等の情報提供

#### 【評価】

当事者や家族、医療機関から転倒や認知能力の低下、介護力の低下に伴う相談、また、地域の独居高齢者の見回り活動結果からの相談等、内容や相談者も多岐に渡ることから、関係機関と情報共有を密にしながら、早期対応ができるよう取り組んだ。

必要時には関係機関との会議を開催し、住民の声をもとにそれぞれの機関でできることを共有し、解決に向けた検討を行った。また、社協内部でのミーティングでは、地域課題や気になるケース等の情報共有を行い、継続的な関りを持つことができた。

### (4) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

#### ①介護支援専門員からの相談等

内 容	4月～9月	10月～3月
受診や医療相談	5件	1件
家族調整	3件	2件
サービスに関すること	9件	5件
資源の活用について（制度外）	11件	3件
経済的なことに関すること	3件	0件
ケアプランに関すること	5件	0件
給付管理に関すること	4件	2件
その他	9件	2件

#### ②居宅介護支援事業者研修会の開催(7月19日)

内 容：「楽しく健活セミナー」

～命を守る「水」を見直そう！ 水分補給の大切さ～

講 師：㈱明治北日本支社コミュニケーション課 食育担当 栄養士 中谷沙希子 氏

参加者：介護支援専門員及び関係機関職員 29人

#### 【評価】

居宅ケアマネジャーだけでは対応が困難な事例に関して、包括や行政、サービス提供機関も含め協議をしながら対応した。

多職種連携強化及びネットワーク構築のため、居宅介護支援事業所だけでなく、訪問型、通所型、施設サービス事業所、地域の支援者等を含めた研修会としているが、コロナ禍により一方的な講義形式での開催となっていることから、今後は意見交換のできる開催方法も検討していく必要がある。

### 3 権利擁護事業

- (1) 成年後見制度の活用促進
- (2) 高齢者虐待の防止及び対応
- (3) 困難事例への対応
- (4) 消費者被害への対応

\* 権利擁護に関する相談（高齢者虐待・消費者被害等に関する対応含む） \* 継続ケース  
ア. 相談件数

相談形態	来 所	電 話	訪 問	ケース検討 担当者会議等	その他	合 計
4月～9月	0件	1件	2件	5件	1件	9件
10月～3月	0件	0件	2件	1件	0件	3件

#### イ. 相談内容

相談内容	4月～9月	10月～3月
成年後見制度活用の相談	0件	0件
高齢者虐待の相談（疑い）	2件	1件
困難事例	2件	1件
消費者被害への対応	0件	0件

#### ウ. 困難事例への対応（重複あり）

	認知	家族、親族が近く にいない・独居	家族、親族 の問題	精神	経済困窮
4月～9月	1件	1件	1件	1件	1件
10月～3月	0件	0件	1件	0件	0件

#### エ. 高齢者虐待の防止及び対応に関する個別ケア会議

4月～9月        2件    延べ3回  
10月～3月      1件    延べ1回

#### オ. 困難事例への対応に関する個別ケア会議

4月～9月        4件    延べ2回  
10月～3月      0件

#### カ. 事例検討会の開催（令和3年12月15日開催）

内 容：①虐待疑いケースへの対応の振り返り

②要介護者から介護者への暴言、暴力があった場合の対応について

③虐待ケースへの支援終結について

講 師：宮城県ケアマネジャー協会理事 小湊純一 氏

参加者：町内居宅介護支援事業所（医療センター）、長寿介護係、包括支援センター



## 【評価】

認知症が原因で介護者への暴言があり、在宅介護が困難になった事例や身寄りがいない終末期のケースへの対応、家族の介護力が低いために生じる処遇困難な事例に対して、関係機関と協議を重ねて対応策を構築した。

ケースや介護者の課題を早期に発見し、対応をしていくことで状況が悪化しないように、地域の見守りや情報の察知、関係機関と協議していく必要がある。

また、成年後見制度や高齢者虐待については当事者にならないと意識しにくい部分があることから、引き続き具体的な事案を紹介しながら啓発していく。

権利擁護に関する相談や対応は緊急事態につながる場合も多いことから、対応に関する検証を行いスキルアップを図る必要があり、引き続き権利擁護に関する事例検討会は関係機関と行っていく。

(単位:円)

項目	事業費	財源内訳		
		委託料	介護報酬 (ケアプラン作成料)	補助金
権利擁護事業	15,000	15,000	0	0

## 4 任意事業

### (1) 家族介護支援事業

家族介護者が地域の中で孤立することなく、また、身体的・精神的・経済的負担を軽減し、介護者自身の健康増進ができるよう事業を推進した。

日時	内容	参加者
6月23日	入所施設での認知症の対応について ・介護老人保健施設と特別養護老人ホームでの対応の仕方 ・介護者同士でお互いの介護についての意見交換  講師：介護老人保健施設「のぞみ」 木村看護師長、阿部介護福祉士  社会福祉法人永楽会 特別養護老人ホームおながわ 澤口介護課長	9人
9月29日	認知症の対応について ・グループホームでの対応 ・介護者同士でお互いの介護についての情報交換	10人

11月17日	認知症の対応について ・認知症デイサービスでの対応 ・介護者同士でお互いの介護について考える  講師：認知症対応型デイサービス「ふらっとおながわ」 川添施設責任者	8人
--------	--	----

**【評価】**

介護者同士の交流を通じて、認知症状に上手に付き合う方法や悩みを相談し合える理解者を見つける場となり、介護疲れを軽減できる機会となっている。

また、町内の介護サービス提供事業者を講師として、認知症対応についての助言をもらうことで、身近に相談できる場があることを知る機会にもなっている。少人数の参加ではあるものの、継続して参加することにより、ゆとりある安心した介護が受けられるよう情報発信をし、支援体制を構築していく。

(2) 認知症サポーター養成講座

認知症に関する理解者の増加、地域の中での見守りや支え合いにつながるよう事業を推進した。

日時	地区・団体	内容	参加者
7月12日	女川高等学園2年生	認知症サポーター養成講座	4人
11月10日	大原南区・婦人部	認知症サポーター養成講座	20人

**【評価】**

コロナ禍により計画していた講座開催が困難な状況であった。地区においては、地域での見守り活動を行っている地区を選択し、講座を開催した。

紙面やホームページ、集いの場での講座等の開催についても引き続き呼びかけ、認知症への理解を求めながら、地域活動へ反映できるようにする。

また、講座受講後のサポーターの活動できる場やフォローについても行っていく。

(単位：円)

項目	事業費	財源内訳		
		委託料	介護報酬 (ケアプラン作成料)	補助金
任意事業	61,893	61,893	0	0

## 5 認知症地域支援・ケア向上事業

### (1) 認知症地域支援事業

認知症の人ができる限り住み慣れた良い環境で暮らし続けることができるように、医療機関、介護サービス事業所や地域の支援機関をつなぐ連携支援及び認知症の人やその家族を支援できるよう事業を推進した。

○もの忘れよろず相談所ほっとカフェ（認知症カフェ）

実施場所	期 日	参加者	ホッパ	内 容	
女川町地域福祉センター内	5月20日	8人	1人	軽体操 茶話会 脳トレ(さーま 85)	
	6月17日	9人	2人	軽体操 茶話会 脳トレ(トランプ)	
	7月15日	9人	2人	軽体操 茶話会 脳トレ(大人の数字盤)	
	8月			石巻市新型コロナウイルス感染症者増加傾向により中止	
	9月16日	6人	3人	軽体操 茶話会 脳トレ(神経衰弱)	
	10月21日	7人	3人	軽体操 茶話会 昔の遊び(おはじき)	
	11月18日	6人	5人	出張ほっとカフェ(うたごえ喫茶そら音)	
	※第3木曜日 13:00~15:00	12月16日	8人	3人	軽体操 茶話会 脳トレ(今年の一文字)
		1月20日	5人	3人	軽体操 茶話会 脳トレ(童謡かるた)
		2月17日	9人	9人	軽体操 生演奏に触れ音楽を楽しむ(うたごえ喫茶そら音ホッパ)
	3月17日	7人	2人	軽体操 紙風船バレー 茶話会	
	計	74人	33人		

#### 【評価】

ほっとカフェについては、コロナ禍での人流を回避するため、地域福祉センター内多目的室にて開催。会場の変更に伴い、旧女川二小学区の参加者も送迎対象としたことで参加者も増加し、会場スペースも広くゆとりがあったことから、感染症対策を実施したうえでの開催ができた。

また、うたごえ喫茶「そらおと」を会場に出張ほっとカフェを開催し、生演奏や音楽に触れる機会を提供できた。

今後も認知症の方やその家族が集い、交流、相談のできる場としてコロナ禍においても安全、安心に開催できるよう工夫した運営を検討していく。

(単位:円)

項 目	事業費	財源内訳		
		委託料	介護報酬 (ケアプラン作成料)	補助金
任意事業	317,793	317,793	0	0

## 6 地域ケア会議推進事業

地域ケア個別会議の実施、多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築により、多職種との連携を図りながら、個別課題、地域課題の解決に努めた。

また、実態把握から得られた情報をもとに地域づくり等につながるよう、社協地域づくり会議へシフトできる仕組みを目指した。

### ○地域ケア会議の実施状況

区分	4月～9月	10月～3月
個別支援ケア会議 (専門職支援者会議)	4回	3回
地域個別ケア会議 (地域支援者を含む会議)	0回	0回

### 【評価】

個別課題が複雑な場合や、多機関での関りが必要な場合は、支援者間での共有が必須なため、専門職間のみでの個別ケア会議だけでなく、地域支援者を含めた地域ケア会議も開催している。個別課題がそのまま放置とならないように時間がかかる課題であってもケア会議を継続し、協議や支援を行う必要がある。

(単位:円)

項 目	事業費	財源内訳		
		委託料	介護報酬 (ケアプラン作成料)	補助金
地域ケア会議推進事業	6,640	6,640	0	0

## 7 指定介護予防支援事業

要支援1・要支援2の方に対する介護予防サービス利用のためのケアプランの作成、ケアマネジメント業務を実施した。

現状の維持や改善が図られているか、本人の意向に沿ったケアプランになっているかの確認を行い、適切にサービスが提供されるよう事業を推進した。

①介護予防ケアプランの作成、ケアマネジメント業務の実施

区 分		件 数	認定区分内訳		
			要支援 1	要支援 2	新総合
契約件数（実件数）		109 件	26 件	76 件	7 件
内 訳	包括担当	93 件	21 件	65 件	7 件
	居宅委託	16 件	5 件	11 件	0 件
給付管理件数（延件数）		1,200 件	294 件	849 件	57 件
内 訳	包括担当	1,029 件	230 件	742 件	57 件
	居宅委託	171 件	64 件	107 件	0 件

②各種作業・申請代行・サービス利用調整

ア.アセスメント・ケアプラン作成

区 分		4月～9月		10月～3月	
		件数	計	件数	計
基本 チェックリスト	新規	16 件	48 件	30 件	67 件
	更新・変更	32 件		37 件	
総合事業基本 チェックリスト	新規	0 件	1 件	4 件	5 件
	更新・変更	1 件		1 件	
利用者 基本情報	新規	22 件	57 件	37 件	85 件
	更新・変更	35 件		48 件	
介護予防サービス 支援計画	新規	14 件	66 件	24 件	74 件
	更新・変更	52 件		50 件	
総合事業サービス 支援計画	新規	0 件	1 件	5 件	6 件
	更新・変更	1 件		1 件	

イ.介護保険各種申請代行手続き

区 分	4月～9月	10月～3月
要介護認定（新規・更新・区変）	99 件	105 件
総合事業利用申請（新規・更新）	0 件	7 件
被保険者証等再交付	19 件	15 件
居宅サービス計画作成依頼	13 件	21 件
要介護認定等情報提供申出	36 件	34 件
負担限度額認定申請	0 件	1 件
福祉用具購入費支給申請	3 件	5 件
住宅改修費支給申請	6 件	9 件
介護認定申請取下げ	2 件	0 件
合 計	178 件	197 件

ウ. 福祉サービス等の利用調整

区 分	4月～9月	10月～3月
外出支援サービス助成券	170件	48件
緊急通報システム利用申請	3件	1件
徘徊SOSネットワーク登録事業	0件	0件
紙おむつ助成券交付申請	24件	12件
医療介護連携情報シート	1件	4件
その他	3件	3件
合 計	201件	68件

【評価】

要支援の認定者が年齢的な機能低下と状態の変化により区分変更の手続きが必要になったり、初回申請で要介護の認定となる方が昨年より多い状況であった。

軽度者に関しては、手すりなどの設置を提案することで、住宅改修の申請を行う方や福祉用具の活用を希望する方が増加した。

また、後期については、癌の発症により入院中に介護認定を申請するケースも見受けられ、一時退院のための福祉用具の調整や、退院後のサービス調整など必要になるケースも増加した。

いずれも利用者本人と家族の意向を確認したうえでの調整に配慮が必要。

(単位:円)

項 目	事業費	財源内訳		
		委託料	介護報酬 (ケアプラン作成料)	町補助金
指定介護予防支援及び 新予防給付・日常生活支援	8,581,687	0	5,292,200	3,289,487

## 女川町地域活動支援センターうみねこ園

女川町及び石巻市より障害者地域生活支援事業サービス提供事業者の指定を受け、「地域活動支援センター」の適切かつ継続的に事業運営を図ってきた。本会で策定した第5次女川町地域福祉活動計画と女川町地域福祉計画の基本理念である「地域の支え合いとつながりで一人ひとりの幸せが実現するまちおながわ」、さらには女川町障害者計画・障害福祉計画の基本理念である「障害のある人もない人も、町民すべてが支え合い安心して自立した暮らしができるまちおながわの実現」のもとに、本センター利用者が、地域の中で安心して暮らすことができるよう、常に地域とのつながりを意識した活動を計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、手法を模索しながらの活動となった。

### 1 地域活動支援センター事業利用状況

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	21	18	22	20	21	20	21	20	20	19	18	22	242日
実人員	7	8	8	8	8	8	8	8	7	7	6	6	
延利用者数	122	106	140	131	121	120	142	131	124	115	94	123	1,469人

事業費	財 源 内 訳			
	障害福祉サービス等 事業収入	就労支援事業 収入	雑収入	町補助金
16,728,484円	8,636,550円	2,291,120円	35,100円	5,765,714円

### 【事業評価】

新型コロナウイルスの感染拡大に対する不安から利用を控える傾向は、一時期落ち着いていたが、8月の緊急事態宣言発令前後には再び1名の利用者が利用を控え始めた。

一方で、町内の事業所で就労していたが、就労中や帰宅途中などに非てんかん性発作が見られたため、気分転換を目的に昨年3月より週に1度本センターを利用することにつながった利用者もおり、一時入院を経て退院後の5月からは再び利用、体力の低下などにより現在就労は難しく、各関係機関との連携のもと支援を継続している。本利用者が7月より週5日の利用となったことや、他利用者の健康状態が維持されていることから前年度と比較して延利用者数も増加している。

下期においては、精神障害のため不安定な利用者が、前年度後半より利用日数が増加していたものの、本人の精神状態の悪化と保護者の身体機能の低下が見られたため12月に入院したことにより、延利用者数は減少している。

## (1) 主な活動内容 (創作活動・社会との交流促進)

月	日	場 所	参加利用者数	内 容
4月	2日	センター内	6人	お誕生会 (日中一時支援利用児童)
	9日	〃	6人	お誕生会・カレーの日
	14日	〃	7人	お花見・大正琴コンサート
	21日	〃	6人	うどんの日 (MCボランティア提供)
5月	6日	〃	4人	端午の節句昼食会
	11日	〃	6人	お誕生会・カレーの日
	12日	〃	5人	ホットケーキクッキング
	13日	うみねこ園畑	5人	畑の観察
	18日	センター内	6人	春の体力テスト
	19日	〃	7人	ディスタンスで大正琴コンサート
	24日	うみねこ園畑	6人	畑の観察
6月	26日	センター内	7人	うどんの日 (MCボランティア提供)
	11日	うみねこ園畑	8人	畑の観察
	16日	センター内	6人	ディスタンスで大正琴
	18日	〃	7人	お誕生会
7月	28日	うみねこ園畑	6人	じゃがいも収穫
	7日	センター内	7人	七夕会・収穫じゃがいもでカレーの日
	9日	〃	8人	フラダンス研究 (「モアナと伝説の海」DVD鑑賞)
	16日	〃	7人	うみねこカフェ
	19日	〃	7人	フラダンス発表会
8月	21日	〃	8人	うどんの日 (MCボランティア提供)
	2日～6日	〃	8人	ウミリンピック
	12日	〃	5人	お誕生会
	16日	うみねこ園畑	5人	畑の観察
	18日	センター内	7人	ディスタンスで大正琴コンサート
	20日	〃	6人	うどんの日 (MCボランティア提供)
9月	24日	〃	6人	ミニ夏祭り
	9日・10日	〃	6人	〇〇の秋シリーズ①似顔絵に挑戦
	21日	〃	6人	十五夜大正琴コンサート&お月見クッキング
10月	24日	〃	6人	〇〇の秋シリーズ②写真に挑戦 うどんの日 (MCボランティア提供)
	4日	うみねこ園畑	6人	畑の観察
	8日	センター内	6人	〇〇の秋シリーズ③パステルアートに挑戦
	18日	うみねこ園畑	5人	畑の観察
	20日	センター内	5人	ディスタンスで大正琴コンサート
	28日	うみねこ園畑	8人	大根収穫
	29日	センター内	7人	ハッピーハロウィン (冒険に出よう! 宝探し)



				の旅)
11月	5日	〃	6人	お誕生会
	11日	〃	7人	秋の体力テスト
	24日	〃	7人	ミニ収穫祭(豚汁昼食会)・大正琴コンサート
	25日	〃	7人	ミニ運動会
12月	15日	〃	6人	ディスタンスで大正琴コンサート
	16日	〃	7人	ハンドベル部発表会
	20日	〃	7人	うどんの日(MCボランティア提供)
	21日	〃	7人	お誕生会
	22日	〃	6人	ディスタンスでボランティアさんとクリスマス会
	24日	〃	6人	クリスマス会(イオン石巻東店提供)
	27日	〃	5人	年末大掃除・ダルマ作り
	28日	〃	5人	年末の大掃除大作戦
1月	12日	〃	6人	お誕生会
	19日	〃	6人	ディスタンスで大正琴コンサート
	28日	〃	6人	新年を祝う会
2月	3日	〃	5人	節分・豆まき&紙しばい
	10日	〃	5人	ウミリンピック(フィギュアスケート)
	14日	〃	5人	バレンタインクッキング
	17日	〃	5人	ウミリンピック(スキークロスカントリー)
	24日	〃	5人	アトム通貨でテイクアウト昼食会
3月	3日	〃	6人	ひな祭り会・ひな祭りクイズ
	17日	〃	6人	お茶会(地震メンタル対応)

## (2) 生産活動

### ① ゴミ袋販売活動

#### 【事業評価】

利用者がゴミ袋販売活動を通じて地域の人たちと関わることが障害者の理解促進の一助となっていたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から現在配達等の活動は指導員のみで行っており、関わることができなくなった。一方で、販売店からの協力や、行政区等での活用が継続していることは理解促進の現れと捉えている。

地域または団体等の行事の際の参加賞や粗品等に活用していただいた団体等 13件

- |                |                |
|----------------|----------------|
| ○竹浦区           | ○(株)ビホロ        |
| ○上一区           | ○旭が丘区          |
| ○浦宿二区          | ○女川町食生活改善推進委員会 |
| ○女川町グラウンドゴルフ協会 | ○(有)日商保険サービス   |
| ○女川町老人クラブ連合会   | ○浦宿一区          |
| ○しおかぜ保育所       | ○女川第4保育所       |

○うお圭

**ゴミ袋販売協力店 10件**

- |                  |                 |
|------------------|-----------------|
| ○相喜フルーツ          | ○(株)赤間商会        |
| ○イオンスーパーセンター石巻東店 | ○女川スーパーおんまえや    |
| ○佐藤貞商店           | ○セブンイレブン女川バイパス店 |
| ○セブンイレブン宮城女川店    | ○高橋酒店           |
| ○ツルハドラッグ宮城女川店    | ○はや美印刷所         |

②検尿容器の袋詰め作業

受注 5,000袋 10,000円

**【事業評価】**

宮城県成人病予防協会より、健康診断で使用する検尿容器の袋詰め作業の依頼を受けるようになってから今年度で10年目になる。この作業については、分業作業により一人ひとりの作業能力に合わせて協力して行うことができしており、期間限定ではあるが、利用者にとって最適な作業となっていた。しかし、成人病予防協会の事業見直しにより、来年度は委託先の一か所当たりの作業量が増加することとなり、利用者のできる範囲を超えることが見込まれるため、今年度限りとなった。

(3) 送迎支援

- |              |    |           |    |
|--------------|----|-----------|----|
| ○送迎中の事故      | 0件 | ○送迎中のトラブル | 0件 |
| ○送迎ルートや時間の調整 | 4件 |           |    |

**【事業評価】**

新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、乗車前の検温及び手指の消毒を行いながらの送迎となっているが、事故やトラブルは1件もなく安全に送迎することが出来た。

送迎ルートと時間の調整については、送迎は本来自宅と当センター間と決まっているところだが、保護者のやむを得ない事情による一時的な生活の拠点の変更には柔軟に対応した。近年は、保護者の介護負担の軽減や、利用者の将来を見据えて環境の変化に適応出来るようになることを目的とするショートステイが増加、利用しやすいように調整をしていたが、現在はコロナ禍の為、ショートステイ自体の利用が無くなっている。

また、送迎においては、保護者の高齢化に伴い安否確認も常に心掛け、ストレスによる心の変化や体調等の変化を見逃すことがないよう努めた。

(4) 障害者相談等窓口

○家族支援 延べ人数 167人

**【事業評価】**

障害者又はその家族が抱えている問題や思いを受けとめる窓口になることで、ストレス解消及び生活しやすい環境を創ることに努めた結果、将来を見据えて行動に移す保護者が増えた。

新型コロナウイルス関連としては、ワクチン接種に関しての不安などにより保護者から相談があり、保護者会として話し合いたいとの要望により懇談会を開催している。

(5) ボランティア

ボランティア受け入れ延べ人数 95 人

【事業評価】

新型コロナウイルス感染拡大を防ぐために受け入れを中止していたが、長年にわたり利用者の日中活動支援で協力いただいているボランティアや農耕ボランティアを中心に、感染防止対策をした上で再開している。今後は、感染状況に合わせて受け入れの調整を行っていく。

(6) 来訪者内訳

(延べ人数)

月	就労した元利用者支援	家族支援・相談等	ボランティア	その他の来訪者	合計
4月	0人	7人	6人	26人	39人
5月	0人	8人	5人	14人	27人
6月	0人	16人	10人	14人	40人
7月	1人	14人	10人	20人	45人
8月	0人	29人	5人	18人	52人
9月	0人	26人	19人	19人	64人
10月	0人	12人	14人	18人	44人
11月	0人	12人	9人	11人	32人
12月	2人	13人	10人	10人	35人
1月	2人	6人	6人	24人	38人
2月	0人	6人	0人	12人	18人
3月	1人	18人	1人	21人	41人
合計	6人	167人	95人	207人	475人

(7) 陶芸

実施回数 未実施

【事業評価】

NPO法人みなとまちセラミカ工場の協力により、月1回の陶芸教室を計画していたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため未実施となっている。

(8) アトム通貨ありがとう製作

区分	4月～8月	9月～3月	合計
新聞バッグ製作数	50袋 1,200馬力	150袋 3,600馬力	200袋 4,800馬力
保護者協力	1,750馬力	1,270馬力	3,020馬力
町民協力等その他	90馬力	1,350馬力	1,440馬力
合計	3,040馬力	6,220馬力	9,260馬力

【事業評価】

町内の新聞店の協力により新聞の古紙を利用して新聞バッグを作製し、その対価として

地域通貨であるアトム通貨をいただいている。そのアトム通貨を使い町内の商店街で買い物をするにより、日中活動の充実と地域交流の幅が広がっている。

町内の企業からの支援によるものではあるが、地域の中で生活するうえでは利用者支援の一つの形として大切にしたい。また、社協だより等を見た保護者や住民から、アトム通貨を利用者のために使ってほしいと持ち寄ってくれる人が増えていることや、保護者の活動の中で洗剤等のパウチを集めてアトム通貨と交換する活動を継続して行いながら、利用者の日中活動支援として寄贈いただいている。

#### (9) 個別支援

##### 【事業評価】

個別支援については、保護者との個別面談結果に基づき、一人ひとりに合った支援に努めた。

#### (10) 写真入り連絡帳

写真入り連絡帳の発行 242 日

##### 【事業評価】

保護者面談時や連絡帳を通じ保護者から生活の様子がわかりやすい、相談しやすいなどの評価を得ている。利用者の日中活動の様子がわかりやすいような工夫をしながら継続していく。

#### (11) 保護者懇談会及び親子交流会

保護者懇談会 3回

保護者個別面談 5回

親子交流会 1回

##### 【事業評価】

近年、保護者の積極的な関わりにより増加した親子交流だが、新型コロナウイルス感染拡大を防ぐために、現在親子交流を目的とした行事は中止としている。今後は、利用者の安全を確保したうえでの交流を再開していく。

保護者懇談会については、保護者からの相談を受け2回実施している。1回目はコロナワクチンをテーマとし、さまざまな理由からワクチン接種ができないことや、副反応に対する不安などの思いを出し合うことで、不安解消につながった。その結果、ワクチン接種の有無に関わらず安心して利用ができる環境が整った。

また、懇談会の中で親亡き後に対して親が今できること、やらなければいけないことなども話題としてあげられていたため、下期においては、シリーズ化して保護者懇談会を実施した。

#### 保護者懇談会スケジュール

	日時	場所	内容	講師
1	令和3年7月19日(月) 10:00~11:45	福祉センター 会議室	○まもり一ぶについて ○法人後見について	事務局総務係 須田主任・酒井主事

2	令和3年10月22日(金) 10:00～12:00	福祉センター 会議室	○親なき後を見据えた、それぞれのライフステージと今親ができること ○地域生活支援拠点	石巻市女川町基幹相談 支援センターくるみ 齋藤康隆
3	令和3年11月26日(金) 10:00～	福祉センター 会議室	○介護予防と介護保険制度 について	包括 鈴木管理者
4	令和3年11月26日(金) 11:00～	福祉センター 会議室	○緊急時・災害時における地 域とのつながり	地域福祉係 千葉係長

## (12) 啓発事業

社協だよりによる「うみねこ園だより」の発行 6回

### 【事業評価】

隔月発行している社協だよりの1ページを利用し、地域で生活しやすい環境づくりを目的に、活動内容を周知することで利用者理解につなげることができた。特にコロナウイルス感染拡大防止のため、来訪者を制限していることから、地域交流を積極的にできない現状では貴重な発信源となった。

## (13) 地域交流

### ①音楽プログラム

以前より行っている石巻広域SSTの会アドベンチャークラブの音楽療法士の資格を有する浅野雅子氏による音楽プログラム（「手遊び」「発声」「リズムトレーニング」「呼吸法」「ハンドベル演奏」等）は後述するクリニカルアートと共に今年度も継続する予定だが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため未実施となっている。

### ②クリニカルアート

①にある音楽プログラムの講師である、臨床美術士の資格も有する浅野雅子氏に以前より行ってもらっているクリニカルアートとは、「五感を刺激し、脳を活性化させ、感性の覚醒や自己実現を目指すアート活動」のことで、今年度も実施する予定だが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため未実施となっている。

### ③ゆぼっぼ入浴会

地域交流と利用者のリフレッシュや生活訓練、さらには高齢化に伴う身体機能の低下予防や清潔保持等を目的に、今年度も実施する予定だったが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため未実施となっている。また、現在ゆぼっぼが休業中であることから、併せて実施の時期を検討していく。

### ④大正琴コンサート

ボランティアによる毎週定期的な利用者に対する日中活動の支援をいただいている中で、ボランティアの方の特技である大正琴を演奏してもらい、それに合わせて利用者が歌を歌うといった体験型のコンサートを行っている。

新型コロナウイルス感染予防対策のため一時中止としていたが、十分な距離を取るな

どの予防対策を講じた上で再開している。多くの行事が中止・縮小となっている中で、利用者の数少ない楽しみとなっている。

#### ⑥ミニ夏祭り

利用者が屋台や受付を担当し、客として訪れた保護者や事務局職員の対応をする形で行われている。近年はより一層保護者の思いの詰まったものとなっていたが、新型コロナウイルス感染予防対策のため、形を変えて利用者のみでの開催となった。

#### ⑦つばくろ会との合同りんご狩り

協力いただいている女川原子力PRセンターにて、毎年つばくろ会と合同で行われるりんご狩りは、小学校や中学校の生徒や、PRセンターの職員などの地域の方々との貴重な交流の場となっている。

昨年度はコロナ禍の為参加を見送り、今年度は感染予防を講じた上で2年ぶりに参加する予定だったところ、悪天候の為中止となったが、PRセンターの方々に、収穫したりんごと大根を届けていただいた。

#### ⑧ミニ運動会

保護者の希望により、親子対抗で開催されていたミニ運動会だが、コロナ禍により昨年からは以前のような利用者を2チームに分けての対抗戦となっている。

#### ⑨親子交流会・ハンドベル演奏会

4月より「ハンドベル部」と称してハンドベルの練習を定期的に行っていたところ、保護者より演奏を聞きたいとの要望があり、12月に感染予防を講じた上で保護者を招いて演奏会を開催した。コロナ禍により保護者がイベントに参加できる機会が減っていたこともあり、利用者や保護者の喜ぶ姿を見ることができた。

## 2 利用者の現状

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、周囲の行事等の中止や、家庭内での活動範囲も狭まった生活が続いているために、こだわり等がある利用者の不安が強く、何度も同じ確認をするなど、不安定な状態が続いている。

このような状況下において、マスク着用や消毒、検温等が普段の生活の中に入ってきたことで一時期は混乱し、特にマスクの着用については、定着するまでに時間がかかったが、徐々にリズムを取り戻してきているようである。

また、年度始めよりワクチン接種がすすむ中、ワクチンの副反応に対する不安や、アレルギーや持病があるために受けることができない利用者が当センターを利用できるのか、受けない人が負い目を感じるのではないかなどの相談が寄せられたため保護者懇談会の中で話し合った。その結果、ワクチン接種の有無にかかわらず利用できること、さまざまな理由からワクチン接種ができない利用者については、みんなでその人を守っていくことで同意を得ている。

下期においては、親亡き後をテーマとした懇談会を開催することで、それぞれの将来を見据えて、さまざまな方向から考える機会となった。今後も、利用者一人ひとりのライ

フステージを共に考えながら、高齢化していく保護者の不安軽減になるよう、継続し多面的にアプローチしていく。

また、新型コロナウイルスが急拡大している現状において、感染拡大防止の徹底と利用者と高齢化している保護者のメンタルケア、さらには利用者の活動の充実の両面からの対応が求められている。

# 女川町日中一時支援事業

障害者及び障害児を一時的に預かることで、障害者等の日常的な訓練を行うとともに障害者等の家族に対する就労支援及び介護負担の軽減を図ることを目的とし、適切な事業運営を図ってきた。

## 1 日中一時支援事業利用状況

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	21	18	22	20	21	20	21	20	20	19	18	22	242日
実人員	4	4	4	4	4	5	5	5	5	5	4	5	
延利用者数	52	42	55	38	38	58	54	46	46	39	36	43	547人

事業費	財源内訳	
	障害福祉サービス等事業収入	町補助金
3,556,803円	1,214,410円	2,342,393円

### 【事業評価】

上期においては、児童1人が4月に転出し利用が中止になったことで、現在小学校5年生3人と中学校3年生1人が利用登録している。今年度も5年生に進級する時期と新型コロナウイルス感染拡大による影響で不安定な状態だったが、その都度保護者と話し合いながら対応した。

下期においては、9月から転入により4年生1名が利用登録となったことで、定員の5人に達したが、週1回のみ利用であるため、延べ利用者数には大きな影響は見られなかった。

なお、中学3年生の利用者は今年度をもって卒業、利用終了となった。

### (1) 主な活動内容（創作活動・社会との交流促進）

月	日	場所	参加利用者数	内容
4月	1日	センター外	3人	町内探検
	2日	センター内	3人	お誕生会
5月	12日	〃	3人	ホットケーキクッキング
8月	2日	センター外	3人	昔の遊び
	12日	センター内	1人	地活利用者お誕生会
	24日	〃	2人	夏祭り・地活利用者との交流
9月	3日	〃	3人	お誕生会
10月	29日	〃	1人	ハロウィン
11月	10日	〃	3人	お誕生会



12月	24日	〃	2人	地活利用者との交流クリスマス会
1月	5日	〃	1人	地活利用者との交流書初め
2月	3日	〃	2人	節分・豆まき
	21日	〃	2人	お誕生会
3月	30日	〃	1人	地活利用者との交流

<毎日の活動内容> ※宿題については毎日個別に取り組んでいる

- ・英語かるた・音楽鑑賞・音読・くみくみスロープ・ジャンピングボール・図画工作
- ・スケッチ・ストラックアウト・世界地図パズル・創作・体感ゲーム・太鼓・DVD鑑賞
- ・トランプリン・日本地図パズル・バランスボール・ハンモック・プログラミングカー
- ・ブロック・迷路創作・文字の学習・読み聞かせ等

## (2) 送迎支援

送迎中の事故 0件 送迎中のトラブル 0件

### 【事業評価】

学校の時間帯に合わせての送迎となり常に調整が必要だったが、保護者や学校と連絡を密にしながら柔軟な対応に努めた。また、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため送迎車に乗る前の検温や消毒、換気等の対策を講じながらの送迎となった。

## (3) 啓発事業

社協だよりによる「うみねこ園だより」の発行 6回

### 【事業評価】

隔月発行している社協だよりの1ページを利用し、地域で生活しやすい環境づくりを目的に、活動内容を周知することで利用者理解につなげることができた。特に新型コロナウイルス感染拡大防止のため、来訪者を制限していることから、地域交流を積極的にできない現状においては貴重な発信源となった。一方で、写真の公開等の制限があるために、児童の活動の様子や表情等を伝えることが難しいのが現状である。

## (4) 個別支援

保護者個別面談 7回実施

### 【事業評価】

児童の成長と共に様々な問題に直面することや、新型コロナウイルス感染の現状を踏まえて、常に相談窓口となれるよう努めた。

## (5) 写真入り連絡帳

写真入り連絡帳の発行 242日

### 【事業評価】

環境の変化が大きい時期は保護者にとって、子どもの様子が気になるところであることから、できる限り活動の様子が伝わりやすいように写真入り連絡帳を発行している。連絡帳には、時系列に活動の内容やコメントでの具体的な様子を記載し、さらに写真で確認で

きるものになっており、連絡帳を通じ保護者とのつながりが深まった。

#### (6) 夏休みのプール利用 (女川小学校)

学校側と保護者との協議のもと、平成30年度より保護者同伴でなくても夏休み中の利用ができるようになり、本センターの活動の中でのプール利用が可能となった。前年度はコロナ感染拡大防止の観点から中止となっていたが、今年度再び利用できるようになっている。

#### (7) 音楽プログラム

以前より行っている石巻広域SSTの会アドベンチャークラブの音楽療法士の資格を有する浅野雅子氏による音楽プログラム(「手遊び」「発声」「リズムトレーニング」「呼吸法」「ハンドベル演奏」等)は後述するクリニカルアートと共に今年度も継続する予定だったが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため未実施となっている。

#### (8) クリニカルアート

(7)にある音楽プログラムの講師である、臨床美術士の資格も有する浅野雅子氏に以前より行ってもらっているクリニカルアートとは、「五感を刺激し、脳を活性化させ、感性の覚醒や自己実現を目指すアート活動」のことで、今年度も実施する予定だったが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため未実施となっている。

#### (9) 保護者カフェ懇談会

学年が進級するごとに直面する問題が変化してきていることから、保護者に対するアプローチも必要になってきている。本センターとしては、ピアカウンセリング的な要素から成人になった当事者とその親とのカフェ形式での懇談会を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため未実施となっている。下期にはコロナ感染防止対策を講じた上、実施したいと考えている。

このカフェ懇談会は、成人になった当事者の就労・余暇活動・暮らしといった、当たり前の人らしい生活を知ること、児童の将来を思い描くときの一助になること、さらには児童の成長段階の中で、様々な問題に直面した時に、より身近なところでの相談相手になるような同じ立場の人とのつながりを作ることを目的としたものである。

## 2 児童の現状

学年の変わり目による環境の変化とコロナ禍による生活様式の変化など、多少の混乱状態があったものの、児童それぞれの成長や学校の対応、学校との情報共有等により現在は少しずつ生活リズムができてきている。

前年度、新たに中学生の利用登録があり、小学校と中学校との下校時間が異なることに対する送迎対応が課題としてあげられていたが、小学校と中学校の間に送迎の時間を合わせるなどの配慮のもと課題の解決につながっている。

また、発達段階の違いや特性が要因となり問題が生じ、関係性を保つのが困難になっているというもう一つの課題については、その都度課題解決のため、話し合いや課題整理の時間を設けるなどの継続した支援が必要となっている。

下期においては、学校の臨時休校時に利用希望があったため、コロナ感染拡大防止の観点から、個室対応を実施した。特に地活の利用者との交流を制限することや、接触する指導員の制限など感染防止を講じながらの支援となった。

新型コロナウイルスが急拡大している現状において、感染防止と利用者のメンタルケア・保護者就労支援、さらには利用者の活動の充実の両面からの対応が求められている。

## 女川町生活支援体制整備事業

高齢者単身・夫婦のみ世帯等の増加に伴い生活支援ニーズが多様化するなか、既存の介護サービス事業所によるサービスだけでなく地域住民が主体となった生活支援サービスの充実が図られるよう、生活支援等の体制整備に向けた調整役として町内に生活支援コーディネーター2名を配置することにより、地域における高齢者等の生活支援・介護予防サービスの基盤整備を推進し、地域福祉の向上を図った。

事業費	財 源 内 訳		
	町委託費	社協財源	その他
5,226,344 円	5,226,344 円	0 円	0 円

### 【主な事業内容】

町内に生活支援コーディネーター2名を配置し、多様な生活支援が利用できる地域づくり、介護予防意識の向上を目的とした地域住民への働きかけを行いました。

行政区内の集会所等を中心にネットワーク構築を図るとともに、支部長や民生委員、福祉活動推進員等と地域情報の共有や後方支援を行うことで、活動の促進・活性化を図りました。また、地域の情報をまとめたコミュニティカルテの更新を行うとともに、行政区内での協議体の開催や、それに向けた働きかけを行いました。

- 地域活動の支援
- 相談業務
- 地域ネットワーク構築

### (1)地域活動の支援

	令和3年度	令和2年度
介護予防事業（遊びりテーション・ふまねっと）	99 回	111 回
地区行事	204 回	167 回
老人クラブ活動	249 回	297 回
サークル活動	138 回	159 回
地域づくり活動の企画及び運営の支援	333 回	204 回
自治会との連絡調整	207 回	149 回
関係機関との連絡調整	124 回	92 回
地域での課題把握（健康調査・地区診断等）	181 回	136 回
地域での人材発掘	20 回	33 回
サービス及び支援の担い手となるボランティア等の育成	2 回	0 回

(2)相談業務

	令和3年度	令和2年度
電話相談	516回	330回
訪問相談（活動参加時対応）	437回	379回

(3)地域ネットワーク構築

	令和3年度	令和2年度
包括・生活支援CO定例ミーティング	12回	21回
生活支援CO研修会への参加	7回	18回
地域ケア会議への参加 （個別に関する課題解決に向けて）	0回	1回
協議体の開催（支え合いの地域づくり）	30回	11回
その他（会議・打合せ）	205回	161回